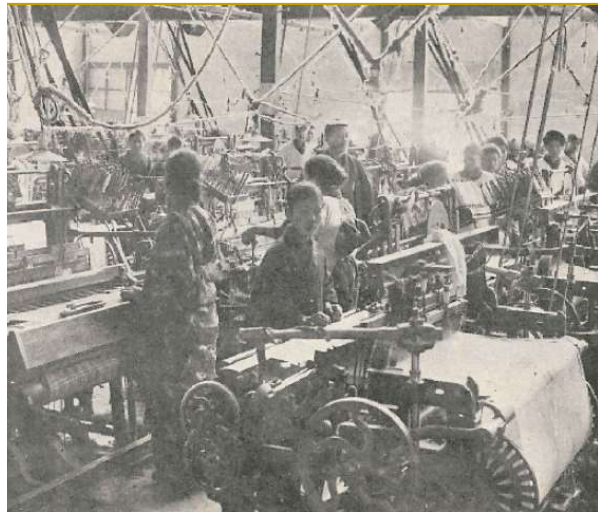




丸編みニット日本一の産地

100年以上の歴史を持つ ニット産業



—和歌山ニットの歴史

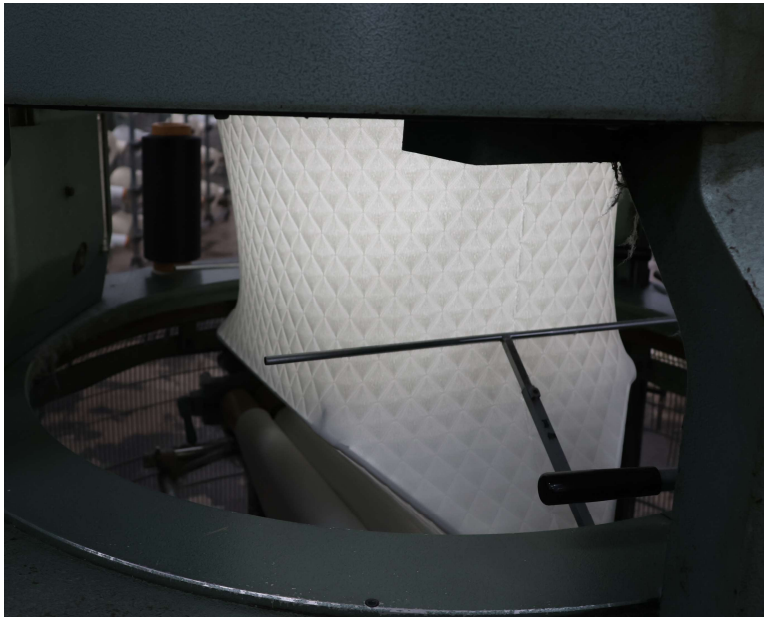
気候温暖な和歌山は元来綿花の栽培に適しているため、江戸時代後期、紀州藩が足袋生産を奨励したことから始まります。足袋の生地には綿花を松葉で起毛させた「紋羽織り」生地が使用されていました。明治時代に入ると、木製の手機織機による木綿織の生産に発展し、「紀州ネル」として全国的に有名な綿ネルの製造も盛んになりました。

—紀州ネルから発展して誕生した地場産業

1900年代初頭、和歌山市に5台のスイス製丸編み機が導入されたことから始まった和歌山ニットの伝統。

その後、紀州ネルの起毛加工を応用した丸編みニット（綿メリヤス）の需要が高まり、生産は急速に拡大。大正末期には既に、丸編みニット生地の生産において全国シェア1位を誇る一大集積地へと発展していきました。





ーニットとは

生地には大きく分けて、「ニット（編み物）」と「布帛（織り物）」があります。同じ素材を使っても作り方によってこの2つに分類されます。

ニット生地の基本は、糸でループ（輪っか）をつくり、そのループを引っかけてまた次のループを作るというように、1本の糸で作られています。伸縮性があるのが特徴で、通気性も良くシワになりにくい素材です。対して布帛生地は、たて糸とよこ糸を交差させて織っていくことで出来上がります。ニットと反対に伸縮性はあまりないが、型崩れしにくい素材です。

一丸編みニットとは①

ニットには大きく分けると「たて編み」と「よこ編み」の2種類があります。編み目が縦方向に連続するのが「たて編み」で、横方向に連続するのが「よこ編み」です。

たて編みニットは、伸縮性はあまりないものの型崩れしにくいのが特徴で、スーツなどの衣類の他、カーシートやフィルターなどの工業製品によく用いられます。

一方、よこ編みニットは伸縮性があり、柔らかな風合いが特徴で、主に衣類に用いられます。よこ編みニットの中でも、円形に編み針が配置された丸編み機で編みたたものが「丸編み」ニットです。



一丸編みニットとは②

丸編みニットは、一般的にカットソーと呼ばれます。よこ編みのように編み上げ時に成形が出来ず、生地が編み上がってから、カットし縫製する作業が必要になるためです。横編みに比べて丸編みは細番手の糸で編んだ比較的ハイゲージ（※）な編み地が多くあります。ジャージやTシャツ、肌着などにぴったりな、柔らかく、素肌に直接触れても着心地の良い生地素材は、この丸編みニットの特徴でもあります。

※ハイゲージ…編み目が細かく密度が高いニット

“Tシャツの聖地 和歌山”へ 世界へ届ける技術力



―産地消滅の危機を迎えて

国内最大シェアを誇る丸編みニット産地であり、世界のラグジュアリーブランドからも指名買収される素材がここ、和歌山で作られています。

しかし、他の国ではできないような素材作りの基盤が、近年徐々に失われゆく現状があります。「日本のアパレル市場と輸入品概況2025」では、日本でのアパレル繊維製品国産比率が1.4%にまで下がり過去最低比率を記録しました。30年前には300社

を超えていた和歌山ニット工業組合の会員も、現在では51社まで減少しています。

―産地一体となった新たな取組

明治時代から続く高い技術力と、これまでに培ってきた天然素材を得意とする柔軟な生産体制。目の前に迫る産地消滅の危機からこの伝統と誇りを守るため、2023年より和歌山ニットプロジェクト（以下、WNP）が立ち上げられました。

プロジェクトをけん引するのは、和歌山のテキスタイルメーカーのエイガールズ。「和歌山ニットが世界に通用するブランドづくり」をコンセプトに、ニッター・染工場・縫製工場などの11社の若手経営者らが賛同しWNPを運営しています。

エイガールズが開発した糸「ロータス」を使ってそれぞれの会社がアパレル商品を作り、WNPのタグを付けて販売。出来上がった製品は、同じ原材料から作られたと思えないほど個性豊か。Tシャツでも糸の細さや編み機の種類で、全く異なる肌触りです。

―今後の展開について

WNPの商品を直接手に触れて、丸編みニットの奥深さを知れる、そんなイベントもWNPでは毎年開催しています。また、国内だけでなく、海外でのイベントも精力的に展開。NYや韓国、台湾、シンガポール、中国など様々な国でイベントを開催し多くの反響を呼んでいます。

歴史と誇りのある伝統技術を守るため、産地一体となって和歌山ニットの魅力を伝える活動しています。





世界の一流メゾンからも支持される。 株式会社AGIRLS



代表取締役社長 山下 智広

2004年以来、パリで毎年2回開かれる世界最高峰の国際的なテキスタイル見本市「プルミエール・ヴィジョン」に出展しているAGIRLS（エイガールズ）。2017年には世界一のテキスタイルの栄冠『PVアワード』を受賞した世界にも認められたテキスタイルメーカーです。

—プルミエール・ヴィジョンにも約20年前から出展し、海外展開を早くから行っている印象。どういった想いで海外展開をスタートしたのか？

元々商社に勤めていたこともあり、当初から海外での展開はしたいと思っていた。海外での知名度が上がれば逆輸入的に国内での価値も高まると考えていたからです。プルミエール・ヴィジョンに初出展した際は、審査の段階から大量のペーパーワークに加え、パリでの2度の面接など多くの苦労があった。最初3年間は赤字が続きましたが、それでも諦めずに挑戦を続けたからこそ、徐々に軌道に乗り一流顧客もついてきました。現在では売上の半分は海外からのものとなっています。

—プルミエール・ヴィジョンへのチャレンジを通し、変化がありましたか？

面接に行き初めて知ったが、イタリアやフランスの生地屋さんなど海外の企業はプレゼンの仕方が素晴らしかった。日本は比較的にシックでモノクロな生地が好まれるが、海外はファッションは楽しむものという考えのもとカラフルなものが多く、色合いもすごく綺麗。またそういった生地の見せ方がとても上手。そこが当時の自分にとっては衝撃だった。生地はいいかもしれないが、見せ方や露出の仕方も大切。そういった価値観は海外に行ったから学べた事。あの時チャレンジしていなかったらと思うとぞっとします。

—今後の展開についてはどういった事を考えられていますか？

自社だけが儲かればいいという考えは捨てました。元々自社で作れない生地のおオーダーを他社に依頼するなど横のつながりはある産地。ライバルになる時もあるが、仲間でもある。海外展開する中で、和歌山ニットの技術やものづくりの面白さは、他の世界を見渡しても和歌山にしかないと感じている。和歌山ニットという産地、ブランドをもっと世界に広めていきたい。そう思って和歌山ニットプロジェクトを立ち上げ、産地一体となった取り組みに挑戦しています。

株式会社AGIRLS

（本社）和歌山県和歌山市三葛3-2

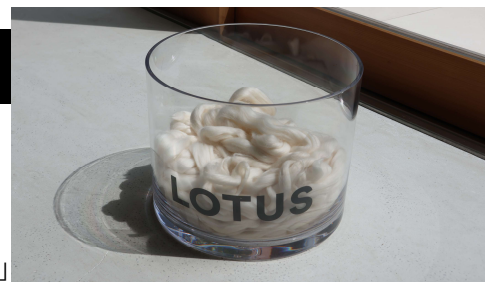
Tel:073-444-1567

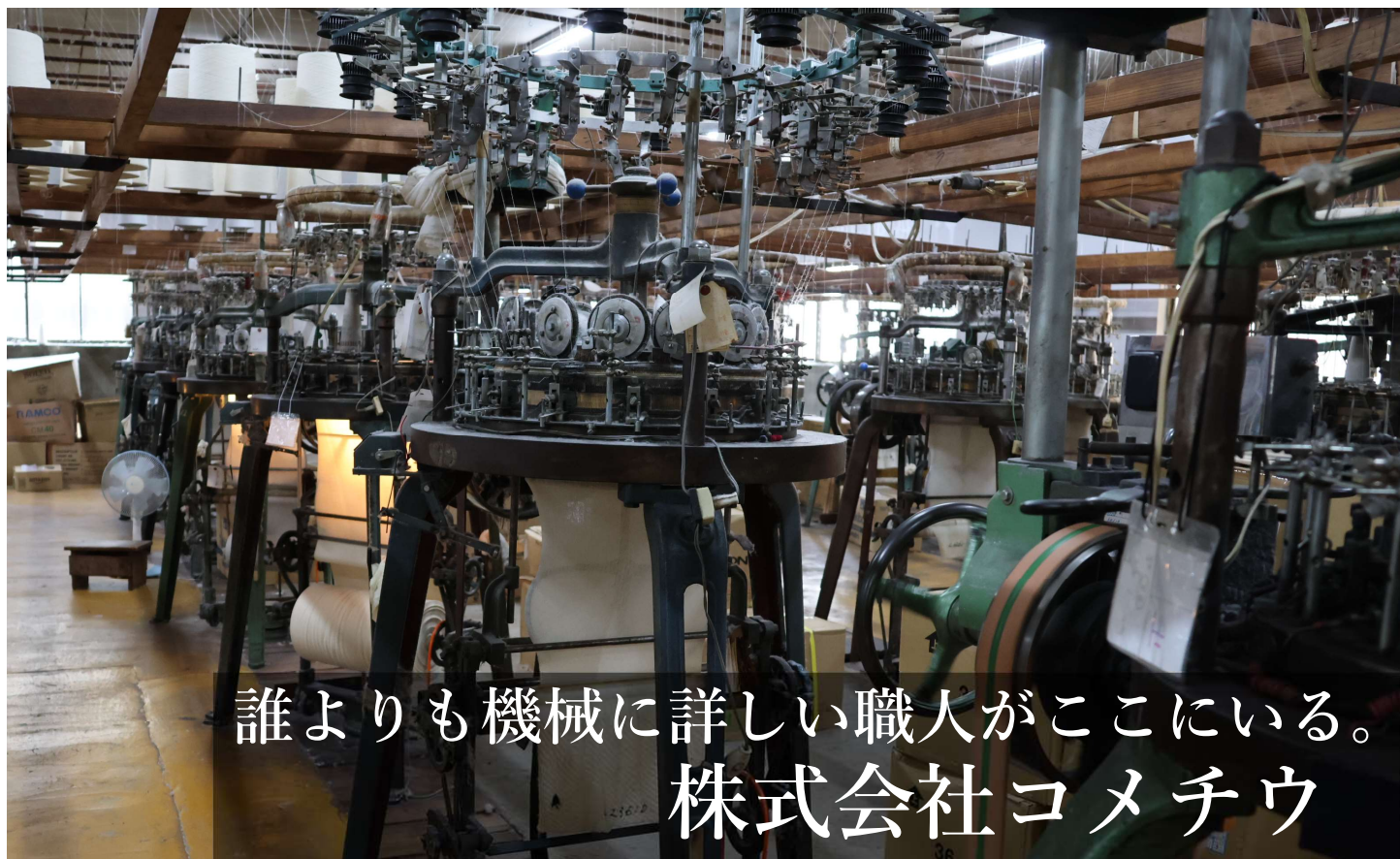
（東京オフィス）東京都墨田区緑4-20-10

Tel:03-3632-2081



右）とろけるような柔らかさの独自素材「ロータス」





誰よりも機械に詳しい職人がここにいる。
株式会社コメチウ



代表取締役社長 南方 俊二

保有している編み機は370台。全て小寸の編み機です。そこに生産量ではない、買ってきたコメチウのこだわりがあります。

—小寸編み機ではどんな生地が作れるのですか？

うちは肌着に使われる生地の特化し、小寸だから編める両脇を縫製せず（そのまま胴部分に）使える生地を編んでいます。作れば売れる時代にも小寸編み機で買っていたから、周りからはもったいないと言われました。でも今では小寸機を大量に動かせるのはうちだけ。だからうちに注文が来ます。

—南方さんは、和歌山で間違いなく機械に一番詳しいとお伺いしました。

うちの機械は全て70年以上前の古い機械。メーカーももう存在していないので、メンテナンスも全て自社でするしかない。部品もないから鉄から全て自社で製造します。

僕が入社したタイミングで先代の職長が退職したから機械の構造を誰にも教えてもらえなかった。だから構造を理解するために編み機を分解して、また組み立てたんです。そうすると構造が分かる。

—全ての機械を分解!? 100年以上前のイギリス・ベントレー社の編み機もあるとお伺いしましたが？

ベントレー社が作った「メロー」という編み機です。ニット業界の常識で、普通は天竺とフリスは別の編み機を使わないと編めません。でもこのメローは、一枚の生地の中で天竺もフリスも編めるし、リブも袋編みも出来るという珍しい機械なんです！世界中でこの機械を使っているのはうちだけ。元々は茨城のニットで使われていたが、廃業されるといふ事であちこち声をかけたが古い機械でどこも扱えずうちに来た。説明書も英語。だから15台受け継いだうちの1台をバラバラにしました。1400くらいあるパーツを3ヶ月かけて元に戻したけど、この機械はほんとに凄い。構造が分かれば機械の不具合が出てもどこを触ればいいのか分かる。これが僕のやり方。そうやって全ての機械を分解して理解していくうちに、一番機械に詳しいとして他社が困った時にも呼ばれるようになりました。



株式会社コメチウ

和歌山市三葛82番地
Tel:073-444-1220

右) 歴史を感じる佇まいベントレー社製編み機「メロー」



ここでしか作れないニット生地がある。 丸和ニット株式会社



代表取締役社長 辻 雄策

丸和ニットといえばバランサーキュラー。丸編み機にたて糸も組み込まれ、織物のような見た目ながら伸縮性があり形態安定も備えるハイブリットなこのニット生地は丸和ニットにしか作れない。

—バランサーキュラーとはどんな生地ですか？

通常の丸編み機はよこ糸だけで生地を編んでいきますが、そこにたて糸も編み込むのがバランサーキュラーの特徴です。編みと織りを高度にバランスさせた丸編み機という意味を込めて名付けられた「バランサーキュラー」。横編みならではの柔らかい生地感はあるのに、たて糸を組み込んだことにより、形態安定も実現しました。

—バランサーキュラーの歴史について

父である現会長が導入した編み機になります。構造としては面白いと思いい偶然出会った中古のたて糸とよこ糸が編める機械を購入したが、当初編まれた生地は汚くとても使えるものではなかったそうです。社内技術者が2年がかりで美しい生地を編めるよう改造し、地道な販路開拓の末、受注量が増加した際に新しく機械を増やそうとした際には、工作機械メーカーに制作を依頼しても拒否されるなど数々の苦労が多かったです。現在もバランサーキュラーを稼働させるためにはたて糸のセットなど多くの手間を要します。それでもバランサーキュラーは、ここ丸和ニットでしか作れない強みであり、誇りです。

—このバランサーキュラーで編まれた生地を使って、オリジナルブランドも展開されているそうですね。

‘Bebrain（ビブレイン）’というブランド名です。バランサーキュラーの特徴である形状安定で型崩れせずきちんとしているに、ニットの柔らかさ肌触りの良さも兼ね備えたセットアップは、長期出張など荷物の多いときでもスーツケースで嵩張らずコンパクトに収まり、滞在中も手軽に洗えシワになりにくいと好評いただいています。

丸和ニット株式会社

（本社）和歌山県和歌山市和田1164番地

Tel:073-471-1231

（東京事務所）東京都渋谷区千駄ヶ谷2丁目31-3

ノイハウスMY302号

Tel:03-5414-0175

右) Bebrainの商品ラインナップ





縫製士の技術を誇りに新たな挑戦も。 有限会社オレンジ



代表取締役 西田 晴美氏

現在では生産終了し、国内に数台しか残っていない希少ミシン・ユニオンスペシャル社フラットシーマーを2台保有しているオレンジ。希少ミシンも使いこなす確かな技術力を持った縫製士がオレンジの宝。

—縫製士の仕事について

布を縫うというシンプルな作業の中に、**長年積み上げた技術**があります。特殊なミシンを操作するだけでなく、図面を読む力も必要。着る人が快適に過ごせるよう、この丁寧で肌に優しい縫製技術を守っていきたい。

—隣にあるソーイングスクールを始めた経緯は？

キッズ向けの教室から始めて、現在は工業用ミシンを使える大人向けのミシンスクールも行っています。形のない布から裁断して、洋服になる。そういったモノづくりの感動、達成感を味わってもらいたかった。また**この縫製の技術を継承し、残していきたい**という思いもあった。スクール名の「ミライソーイングスクール」は“未来の手”でそういった想いも込めています。

—今後の事業展開について

今オリジナルブランドの男性用肌着を開発中です。OEMだけでは、時期によって受注量にムラが生じるため、経営の安定を図るという目的もあります。しかし、私たちにとって最も大きな目的は「新しいことに挑戦する」ことです。もちろん、挑戦には苦勞もつきものですが、**私たちが楽しみながら取り組む姿を見せることで、若い世代にも「楽しみながら考え、新しいことに挑戦する姿勢」を持ってほしい**という想いがあります。今回企画している男性用肌着「dadada（ダダダ）」は、敏感肌の人にも使ってもらえる優しい素材。麵100%とシルク100%の2種類の展開予定ですが、どちらも最高品質の和歌山ニット素材。縫製はもちろん自社で行い、フラットシーマーも使用し、**まるで縫い目が消えたかのような滑らかな着心地**をもたらしてくれます。天然由来の染色も和歌山で行い、オール和歌山のこだわりです。同時に肌にも、生地にも、環境にも優しい洗剤も開発中です。「肌に寄り添い、人に寄り添い、地域に寄り添う。」という motto で和歌山ニットのものづくりの一員としてこの伝統を繋げていきたいと思ひます。

有限会社オレンジ

和歌山市小雑賀677-12

Tel:073-499-5106



右) 希少なミシン。ユニオンスペシャル社製フラットシーマー





再挑戦して手に入れた独自技術。 豊染工株式会社



専務取締役 田中 大幹氏

祖父が創業し、この産地で染色加工をつづけてきた豊染工。3代目田中さんが中学時代にハマったアメカジブーム。好きなテイストは今も変わらず、カジュアルに特化している豊染工の現在の仕事にもつながっています。

—独自技術ピールオフとはどんな染色技術ですか？

色落ちしない染料を使い、色落ちした風合いを再現しています。ヴィンテージ加工をしたような古着っぽい風合いに仕上がる。通常の染加工より時間がかかるので20年前に挑戦した時は、商売にならないと思い諦めたが、コロナ禍に再挑戦しました。

—過去に断念した技術。なぜ再挑戦しようと思ったのですか？

コロナ禍で需要が落ちた時に危機感を抱いた。また息子が自分の後を継いでくれると言ってくれていた事もあり、長く続く会社になんかという使命感もありました。その中で**自社の強みとなる技術を手にいれたい**と考え、中断していたピールオフ技術を仕上げました。直売店もスタートし、地道に売り込んでいき、今ではこの加工をしたいために指名オーダーももらえるようになりました。

—独自技術はもう1つ。100年前の機械を使った起毛技術も。

元々は外注企業が使っていた機械なんです。15年ほど前に高齢で引退された時に機械だけ譲り受けていた。コロナ禍の時期にチャンピオンの70年代、60年代のスウェットを作りたいという声が出てきた。コロナ禍にもっと自社の強みが必要だと感じていたの**で、100年前の機械を動かせばそういったオーダーに応えられるんじゃないか**と思ったんです。だから修理する事を決意した。ただ古い機械だから図面も既製品の部品もない。図面を起こしなおすのに半年、そこから修理が終わるのに1年ほどかかりました。でも**この機械だから出来る100年起毛はやっぱり需要があった**。今ではこの加工のお陰で、一流カジュアルブランドとの取引も続いています。



豊染工株式会社

和歌山市吉原768

Tel:073-479-0768

右) 重厚感のある100年起毛機械。

